

ギターラ社 東京古典楽器センター

音楽教室ご案内

TEL:03-3952-5515 FAX:03-3952-5516

info@guitarra.co.jp http://www.guitarra.co.jp/

営業時間：10：30～19：00（毎週月曜日定休）

※音楽教室は21：00頃まで開講

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-17-49

山手線目白駅 徒歩5分

学べる楽器	火	水	木	金	土	日
クラシックギター	★	★		★	★	
リュート			★		★	
チェンバロ		★	★	★		
リコーダー	★	★	★		★	★
ヴィオラ・ダ・ガンバ	★					★
シター					★	
通奏低音	現在休講中					

月謝制 レッスン	入会金		¥10,000	
	入会から3ヶ月間	2 枠	60 分	¥6,500
		以降1 枠 (30 分) 増につき		¥3,500
	入会から4ヶ月以降	2 枠	60 分	¥8,000
3 枠		90 分	¥11,500	
4 枠		120 分	¥15,000	
以降1 枠 (30 分) 増につき		¥3,500		
ワンレ ッ ス ン	1 枠 (30 分) ※アンサンブルレ ッ ス ン は 1 名 あ た り の 料 金	生徒 (月謝制レッスン受講中の方)	個人	¥4,000
			アンサンブル	¥3,000
		一般	個人	¥5,000
			アンサンブル	¥3,500

例えばこんな時間の取り方ができます
月謝制レッスン

2 枠【月謝：¥6,500 / ¥8,000】
・30分レッスン×月2回
・60分レッスン×月1回

3 枠【月謝：¥10,000 / ¥11,500】
・30分レッスン×月3回
・90分レッスン×月1回

4 枠【月謝：¥13,500 / ¥15,000】
・40分レッスン×月3回
・60分レッスン×月2回

赤字は入会から3ヶ月間
青字は入会から4ヶ月以降の月謝です

※料金はすべて税抜表記です

- ・「1 枠/30分」が基本の時間枠です。ひと月に「2 枠/60分」以上を取得することで、月謝制レッスンの受講ができます。
- ・先生の出講は月3回です。取得時間枠数を月3回のレッスン日の中で消化できるように、先生と相談して時間をお約束します。
- ・2 枠以上は、いつでも、何枠でも増やせます。減らしたい場合は現在の受講時間枠数を3ヶ月以上継続しているときに限って変更できます。
- ・入会から3ヶ月間は「トライアル期間」です。2 枠分をお得な料金で受講できます。
- ・無料体験レッスン受付中です。ご入会を検討されている方はぜひともお問い合わせください。
- ・遠方にお住まい等、継続的なレッスンがむずかしい方には「ワンレッスン（予約制・入会金不要）」をご利用ください。

【入会申込書】

年 月

日

【	科】	【	曜日】	【	先生クラス】	【	枠】	【月	回レッスン/1回	分】
入会金 10,800 円 + 月謝 (税込) 円 + 合計 円 左記費用を添えて申し込みます。										
名前	フリガナ	【電話番号】				<input type="checkbox"/> 社会人 <input type="checkbox"/> 専門/短大/大学生 <input type="checkbox"/> 中・高校生 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 幼児				
		【携帯電話】								
住所	〒	【FAX 番号】								
【E メールアドレス】						【初回レッスン日時】				
【備考欄】										

※受付記入欄 会員番号 () 月謝ノート 生徒名簿 レッスン時間割

< クラシック・ギター >



ギターと一口に言っても実はいくつかのジャンルがあります。ギタラ社の音楽教室では最も基礎であるクラシック・ギターを学ぶことができます。有名な『アルハンブラの思い出』や『禁じられた遊び』はクラシック・ギターの曲です。基礎を正しく学ぶことは他のジャンルのギターを弾く上でも上達の早道です。また、間違っただけの演奏は手や身体を壊す原因となります。いつでもカッコ良くサッとギターを片手にできるようにしましょう。

～講師紹介～



火曜日 田口 秀一（たぐち しゅういち）先生

バリ・エコール・ノルマル音楽院にてR. アンディア、A. ポンセに師事。86年ソロと室内楽にて演奏家ディプロムを取得。（公社）日本ギター連盟正会員、大阪国際音楽コンクール審査員。2007年より第1回蓼科高原サマースクールを故稲垣 稔氏と共同で立ち上げる。現在、信州原村にてサマーセミナーとして継続主宰。2013年（株）現代ギター社より「ギターメソッド基礎」を2016年同社より「ギターメソッド基礎 Vol. 2」を出版。



水曜日 伊東 福雄（いとう ふくお）先生

中央大学史学科卒。ギターを小原聖子、O. ギリアの両氏に、演奏法を藤原義章氏に師事。第3回クラシカル・ギターコンクール主席入賞、翌年、デビューリサイタルを行う。アンサンブルを中心とした演奏活動をする一方作曲活動も行い、多方面に活動。現在、フリーバース・カンパニー、ゴンドラマンドリーノ、田沢湖音楽祭等のメンバー、日本ギター合奏連盟理事、（公社）日本ギター連盟理事。



金曜日 篠原 正志（しのはら まさし）先生

小原聖子氏に師事。第16回東京国際ギターコンクールにて第一位受賞。1974年渡欧。サンティアゴ・デ・コンポステラにおける国際音楽講習会に参加。J. トーマス氏に師事。1977年デビュー以後、リサイタルや他のジャンルのアーティストとのコラボレーション、ジョイントコンサート等多く出演。『フリーバース・ギターデュオ』、チェロとのデュオ『Ensemble たのシク』でも活躍。2010年より総合音楽祭『飯綱ムジカフェスタ』を主宰。



土曜日 濱田 三彦（はまだ みつひこ）先生

ギター教授歴は長く、当教室の講師担当は40年近くとなる。リュートやバロック・ギターの本邦におけるパイオニア。各種の楽器を用いての幅広い演奏・録音活動はルネサンス音楽から現代作品に至るレパートリーを手がけた。数年前より評論の筆もとり、『レコード芸術』誌・新譜月評欄レギュラー。一方では画家、歌人としての横顔を持つ。当教室ではギター科、リュート科を兼任。日本ギタリスト協会顧問。

< ヴィオラ・ダ・カンパ >



一見するとヴァイオリンのような形をした弦楽器です。カンパとはイタリア語で「脚」のこと。脚に挟んで弾くヴィオラという意味です。ヴァイオリン位の物からチェロ位の物までいくつか大き目の種類がありますが、すべて脚に挟んで演奏します。優美な響きは貴族的で宮廷でも愛されました。イギリスにおいてはこの楽器だけのアンサンブルも盛んに演奏され名曲が沢山あり、J. S. バッハ『マタイ受難曲』でも大活躍しています。

～講師紹介～



火曜日 神戸 榎樹美 (かんべ ゆきみ) 先生

バーゼル市立音楽院古楽科卒業。ハーグ王立音楽院留学。大橋敏成、H-L. ミュラー、W. クイケン氏の各氏に師事。帰国後はリサイタル、テレビ、ラジオ、録音を通して演奏活動を行う。神戸榎樹美ヴィオラ・ダ・カンパ合奏団を主宰し、国内はもとより、アメリカ、ベルギー、ドイツ、フランスで好評を得ている。CD『Buffet』、『花鳥猫風月』、楽譜『花鳥風月』『キャトル』『陽気なカンパ弾き』と続々創刊中。



火曜日 小澤 絵里子 (おざわ えりこ) 先生

フェリス女学院短期大学音楽科卒業。ヴィオラ・ダ・カンパを神戸榎樹美氏に師事。W. クイケン氏に日本・ベルギーにおいて指導を受ける。神戸榎樹美ヴィオラ・ダ・カンパ合奏団のメンバーとして活動、国内外で好評を博す。池袋コミュニティカレッジ講師。子供から大人まで、楽譜の読めない方にはソルフェージュから丁寧なレッスンを行ないます。



火曜日 橋爪 香織 (はしづめ かおり) 先生

国立音楽大学楽理科卒業。在学中よりヴィオラ・ダ・カンパを神戸榎樹美氏に師事。神戸榎樹美ヴィオラ・ダ・カンパ合奏団のメンバーとして、国内各地、アメリカ、ドイツ、フランス、ベルギー等で演奏会を行う。コンサートでの活動の一方、アンサンブル奏者、独奏・通奏低音者としても活動している。上野学園中学・高等学校講師。



日曜日 品川 聖 (しながわ ひじり) 先生

東京生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。高校時代にバロック音楽への興味が募り、バロック・ヴァイオリンを若松夏美氏に、ヴィオラ・ダ・カンパを中野哲也氏に師事。桐朋学園大学音楽学部古楽器科(ヴィオラ・ダ・カンパ専攻)卒業後、ベルギーのブリュッセル王立音楽院に留学。ウィーラント・クイケン氏に師事。ディプロマを取得し首席で卒業。2001年ソロ・デビュー以来、各地でコンサート活動を展開。3枚のソロCDをリリース。

<チェンバロ>



ピアノができる前の鍵盤楽器で白鍵と黒鍵が逆になっている楽器が多いことでも良く知られています。ピアノでも演奏される J. S. バッハやヘンデルの曲はチェンバロの為に書かれたものです。ピアノのように大きな音がしないので家で練習するときも近所迷惑になりません。小さな曲でも素敵な演奏ができるチェンバロは大人になってから初めて鍵盤楽器を習う方にもピッタリです。英語ではハープシコード、仏語ではクラヴサンと言います。

～講師紹介～



水曜日 新谷 久子 (しんたに ひさこ) 先生

津田塾大学英文科卒。東京芸術大学楽理科中退後、西ベルリン音楽大学を首席で卒業。ヨーロッパ各地でのコンサートをはじめ、ベルリン放送交響楽団と数々のレコード放送録音を行う。オーストリー放送協会主催の数々のコンサート・放送録音に、ソリスト・伴奏者として出演し、1986年帰国。アンサンブル・ロココ主宰。



木曜日 梶山 希代 (かじやま きよ) 先生

東邦音楽大学卒。古楽研究会 Origo et Practica でチェンバロソロと通奏低音による伴奏法、アンサンブルを橋下ひろ、故鍋島元子の両氏に師事。ウィーン市立音楽院で T. コープマン氏、リュベック音楽院で B. V. アスペレン氏のマスタークラス修了。各地でソロとアンサンブルの演奏活動。古楽研究会講師、東邦音楽大学講師、日本チェンバロ協会会員。デュオ《レ・キャトルマン》メンバー。CD『Keyboard Duets of The Bach Family』をリリース。



金曜日 渡辺 玲子 (わたなべ れいこ) 先生

桐朋学園大学古楽器科チェンバロ専攻卒業。チェンバロを鈴木雅明氏に師事。東京古典楽器センターチェンバロ科講師。アンサンブル“雲水”メンバー。『聴衆と一体感の持てる演奏会』を信条に、現在、アンサンブルを中心に活動中。

<リュート>



15世紀以降、最も普及し好まれた弦楽器がリュートでした。アラビアを経て日本まで来たのが琵琶といわれます。洋梨を割ったような半球型のその姿は本当に美しく、吟遊詩人がリュートを弾きながら語り歩く姿が目に浮かぶようです。タブラチュア譜という独特な楽譜を使いますが、読み方から一つ一つ丁寧に学びます。木曜日のクラスはビウエラやバロック・ギターのレッスンも受講できます。どうぞご相談ください。

～講師紹介～



木曜日 水戸 茂雄 (みと しげお) 先生

スペイン国立オスカル・エスプラ音楽院、マドリッド王立音楽院に学ぶ。リュートをホセ・ミゲル・モレノ、ホプキンソン・スミスの両氏に、演奏様式をウィルヘルム・R・タルスマ氏に師事。著訳書に『リュート教則本』、『バッハ リュート作品集』など、CDにリュート、ビウエラ、テオルボなどの録音多数。現在、海外や日本でリュートの第一人者として活動。N&S 古楽研究会主宰、日本ビウエラ協会理事、東京音楽大学非常勤講師。



土曜日 濱田 三彦 (はまだ みつひこ) 先生

当教室の講師担当は40年近くとなる。リュートやバロック・ギターの本邦におけるパイオニア。各種の楽器を用いての幅広い演奏・録音活動はルネサンス音楽から現代作品に至るレパートリーを手がけた。数年前より評論の筆もとり、『レコード芸術』誌・新譜月評欄レギュラー。一方では画家、歌人としての横顔を持つ。当教室ではギター科、リュート科を兼任。日本ギタリスト協会顧問。

<シター>



シターは中世以来の歴史があるアサルタリーが19世紀以降に大きく改良され現代に生きる楽器として甦りました。天から降り注ぐような美しく優しい響きのするこの楽器は、誰にでも弾ける易さと高度な演奏技術に習熟すれば深い音楽表現も可能な二面性を備えています。音の優しさと奏法の簡便さから、近年大きな進歩を見せる音楽療法に適した楽器としても注目されています。

～講師紹介～



土曜日 三好 美穂 (みよし みほ) 先生

幼少の頃よりピアノ、エレクトーンを学ぶ。シターをダミアン原田氏に師事。フランスのヴェズレーにてシターマスター・クラス修了。サント・マリー・マドレーヌ大聖堂にて観光局主催のコンサートに出演し、賞賛を得る。ポピュラー、ジャズ、クラシックの豊富な演奏経験と知識を活かし、サロン・コンサートやボランティアで活躍。シター音楽協会 ssei

<リコーダー>



元々リコーダーは鳥を調教するために使われました。Record（記録する）つまり鳥に歌を覚えさせるのです。リコーダーの歴史はそこから始まりました。リコーダーは息を吹けば音が出るのでスタートし易い楽器です。しかし、その先には美しい音と高度なテクニックを必要とする名曲が沢山あり、その奥深さは計り知れません。ソロはもちろん、アンサンブルも楽しい楽器です。木製リコーダーも魅力ですが、スタート時は扱い易いプラスチック製の楽器でも大丈夫です。

～講師紹介～



火・金・日曜日 片岡 正美（かたおか まさみ）先生

オランダ Den Haag 王立音楽院にて、リコーダーを F. ブリュッヘン、R. カンジの両氏に、トラベルソを B. クイケン氏に師事。古典音楽協会室内合奏団ソリスト、同オリジナル楽器部門ムジカ・アンティカ代表。東京芸術大学講師。



水曜日 野崎 剛右（のざき こうすけ）先生

東京芸術大学音楽学部器楽科古楽・リコーダー専攻卒業。卒業時、同声会新人賞を受賞。第27回全日本リコーダーコンテスト独奏部門、花村賞（最優秀特別賞）。第10回 KOBE 国際学生音楽コンクール管楽器部門、第2位。リコーダーを品川治夫、吉澤 実、山岡重治の各氏に師事。NHK、新学社などの学校教材の録音に協力。



水曜日 宮里 あや（みやざと あや）先生 ※野崎剛右先生代講

上野学園大学音楽学部器楽科リコーダー専門卒業。リコーダーを山岡重治氏に師事。古楽アンサンブルを小林英之、櫻井 茂、戸崎廣乃の各氏に師事。リュートを永田平八氏に師事。各地でアンサンブルを中心に活動中。リコーダーオーケストラ La Ruberutina メンバー。



木曜日 安井 敬（やすい たかし）先生

リコーダーを飯室 謙、大竹尚之の両氏に師事。1978年、オランダのスウェーリンク音楽院にてワルター・ファン・ハウヴェ氏に師事。YASU、コンソート・リコルド、東京リコーダー・オーケストラ等のメンバー。雅楽器や正倉院復元古楽器による演奏も手がけ、国立劇場音楽公演等に出演。アイルランド音楽は1987年に「ファー・イースト・セッション」の結成より活動を始め、以来日本におけるホイッスル奏者として草分け的存在となる。近年ではアイリッシュ・テイストによるポピュラー音楽の分野にも活動の場を広げている。



土曜日 品川 治夫（しながわ はるお）先生

武蔵野音楽大学卒。リコーダーを矢沢千直氏に師事。1974年よりカテリーナ古楽合奏団メンバー。1987年から古楽情報誌『アントレ』を創刊し、依頼編集発行人を務める。

※現在新規生徒の募集は中止しております。